

## 第5回 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会 意見提出用紙(傍聴者用)

第5回 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会の運営等に関し、皆様のご意見をお寄せください(郵送、ファックス又は電子メールでお送りください)

※ご意見の記入は、この用紙に限らず自由にお書きください。また、ご意見の項目・分量も自由ですので、スペースが足りない場合には別紙を添付してください。

傍聴した委員会:第5回 【令和6年12月26日開催】

ご意見:

委員会を傍聴させていただきありがとうございました。

### ●全体

- (1) マニュアルがいろんなところで出てきます。マニュアルがあるとルール至上主義者が出てきたり、ルールに引っ張られたり、思考停止する可能性がおおいにあります。あまりマニュアルに頼らないで、けやき安藤さんの言う茶の間を作るのがいいと思います。
- (2) 評価をするのは条例にあるからではなくて、評価条文が条例に入った目的を達成するためではないでしょうか。条例中の評価の意味。そこを間違えると条例の目的を達成できないだけでなく、評価される方は嫌な気持ちになり、職員・委員や報告を受ける理事者・議員は無駄な時間を使うことになります。
- (3) 学術論文でないからよいと言われればそれまでですが……、事実と意見が混在していて危険だと思います。誰かの意見が事実と取られる可能性があります。特に「反響があった」「少ない」「良い」など本来定量的に評価される表現など。意見と分かるように表記しないと危険だと思います。他にも多々あります。「感じられる」などちゃんと意見と分かる文が多い中に埋もれてるのも紛らわしいです。意図的な場合、仲間の間では「意見ロンダリング」と呼んでます。例えば「AなのでB」という表現を使うとBに注目が行ってAを事実化できるんです。うっかりすると騙されます。テクニックです。
- (4) 最終版ではUDフォントを使ってください。

### ●西部の部分

- (1) 「コロナ禍でこれらの地域の活動が途切れてしまった」と「繋がりを再構築する」は関係ないです。別件です。「ため、」で文を繋ぐのは言葉としておかしいです。他団体と繋がると途切れた活動が復活する??? 別の点でもこの文に違和感があります。目立って途切れた活動があるような気はしないし、繋がりも切れてないんじゃないでしょうか。不思議です。最近ではクマでジャンボリーが中止にはなってますが途切れたということではないと思います。青少協が解散してしまったとかなら途切れるのかもしれないですが。
- (2) 委員に若い層がいるとありますが、若い層はいないと思います。「若い」の年齢が分からないのでなんとも言えませんが。中間の年代って何でしょう。謎です。全員の年齢を知っているわけではないので正確ではないですが、アンダー40がいなくて、それより上はまんべんなくいると思います。この文も事実のように読めるので危険です。

### ●字句について

- (1) コロナ化はp.39にもありました。自動置換がいいと思います。
- (2) p.4 の囲みで関前だけが協議会じゃなくなってます。
- (3) 「コミュニティセンター」がたくさん出てきます。  
2つ目からは、市民により親しまれている「コミセン」に省略してはいかがでしょうか。  
同様に「コミュニティ協議会」は「協議会」に。  
字数もけっこう減るんじゃないでしょうか。  
p.43では「今後、さらなるコミセンの建て替え……」ともう使ってますし。